

# アフターコロナ時代に適応した高野山・山麓地域における周遊促進実証事業【高野山・山麓地域】

- アフターコロナ時代の混雑・接触回避・キャッシュレスなどの観光需要に適応するため、高野山内の路線バスフリー乗車券や地域クーポン等のデジタル化を図り、地域が一体となってスマートフォンを活用した情報検索・決済等の受入整備を促進する。
- また、高野山に集中する外国人観光客を、二次交通が充実していない高野山麓地域を含めて周遊してもらえるように、路線バスとレンタカーを活用した新たな周遊ルートの構築を行う。

## 事業実施地域における背景・課題

- 広域的背景** ・外国人観光客の訪問は高野山へ集中(繁忙期には「密」が発生)しており、麓に位置する山麓地域への誘客・周遊が課題となっている。
- 地域的課題** ・アフターコロナ時代に対応した混雑・接触回避・キャッシュレスなどの需要が高まっているが、スマホ1つで情報検索・決済等を行う個人観光客への対応が進んでいない。

## 効果検証・事業評価

- ・高野山デジタルパス(南海りんかんバス1日フリー乗車券)  
販売数: 78枚、付帯クーポン利用: 108枚  
販売期間: 令和3年1月8日~3月21日(当初3月10日までを延長)  
※緊急事態宣言が重複、告知も控えたため販売枚数が伸びなかった。
- ・高野山駅で現金購入しかできなかったバスフリー券が、デジタルでも事前購入でき好評。マイカー利用者の購入も複数枚あるなど、高野山・山麓ドライブマップと合わせた活用により、渋滞が慢性化する高野山の渋滞緩和と新たなニーズ獲得が今後も期待できる結果であった。
- ・一方で、デジタルパスならではの魅力・利便性(位置情報の活用、ワンストップでの多様な交通モードの提供)を期待する意見が多数あった。
- ・特に鉄道との連携への意見は多く、情報発信を含めて、大阪と高野山を結ぶ主要路線である南海電鉄との協力が不可欠である。

## 次年度以降の取組

- ・次年度も本協議会において、県外から高野山へのアクセスである南海電鉄高野線、アクセスバス(京都-高野山線等)との連携をはじめ、高野山麓地域も含めた、新たな地域クーポンや価格等でデジタルパスならではの魅力創出を行い、繁忙期(秋シーズン)での運用に向けて準備を進める。
- ・将来的には熊野方面も含めて、紀伊半島全体をスマートフォン1つで周遊する外国人旅行者の受入対応ができるような展開を目指す。

## 事業概要

### ・事業主体

紀伊半島外国人観光客受入推進協議会  
高野山デジタル対応推進部会  
(構成員: 和歌山県、高野町、南海電鉄、南海りんかんバス)

事業連携: 総本山金剛峯寺、高野山文化財保存会

### ・事業実施期間

高野山デジタルパス販売期間  
令和3年1月8日~3月21日  
※各種調査等は11月開始

### ・取組概要

- (1) デジタルパスの運用  
【日本語・英語対応】  
・高野山内バス1日フリー乗車券・観光施設・飲食店・土産物のクーポン付き(27施設)
- (2) 周遊ルートの構築  
【英語版】  
・外国人モニター調査、公共交通とレンタカーを活用した高野山・山麓地域ドライブガイド制作

### (1) デジタルパスの運用

- 紙チケットをデジタル化(日・英)
- ・高野山内バス1日乗車券 + 27施設クーポン
  - ・諸堂共通内拝券
  - ・霊宝館入館券

### DIGITAL



地域協議会や地元説明会、モニター調査の様子



### (2) 周遊ルートの構築

高野山・山麓ドライブマップ(英)  
「Koyasan Drive Around」



モデルコース

道路注意情報

GoogleMaps連携